
科学技術館の再整備周辺調査について

文化庁 博物館振興室



令和5年7月14日

○ 調査実施背景

環境省において、施設の老朽化や樹木の管理不足・老木化等の理由によって北の丸公園の利用の在り方を検討。

本調査は、博物館振興の観点から、私立の登録博物館としての科学技術館を主な対象施設とし、北の丸エリアの特性を活かしながら、民間企業や他の文化施設等との連携可能性など、様々なステークホルダーのアイデアを活用した、文化的発展の実現に向けた調査を行うもの。

○ 現状

北の丸エリアは、東京・日本の中心であり、かつ、自然豊かなポテンシャルの高い地域である。科学技術館は開館からおよそ60年が経過し、耐震性等の問題から建て替えを検討している。

○ 本検討会に係る主な課題

1. 各周辺施設の状況 … P.3
2. 北の丸公園（エリア）における課題意識 … P.6
3. 周辺施設との連携 … P.7
4. 新しい「科学技術館」に求められる視点 … P.8

1 各周辺施設の状況①



(図) 北の丸公園周辺施設

1 各周辺施設の状況② 施設の老朽化の状況

	規模	築年数	直近改修
①科学技術館 (公財・日本科学技術 振興財団)	階数 地上6階/地下2階 借地面積 6,814.41㎡ 建築面積 5,107.665㎡ 延床面積 25,163.60㎡	58年 (昭和39年開館)	昭和57年(別館建設(地下1～2階)) 平成元年(別館増築(3～5階)) 平成8年(科学技術展示室を大幅改修)
②国立公文書館 (独・国立公文書館)	階数 地上4階/地下2階 敷地面積 4,180.52㎡ 建築面積 818㎡ 延床面積 7,770.26㎡	51年 (昭和46年竣工)	平成24年(本館の耐震補強工事)
③東京国立近代美術館 (独・国立美術館)	階数 地上3階/地下1階 敷地面積 6,107㎡ 建築面積 4,511.62㎡ 延床面積 17,192.6㎡	53年 (昭和44年建設)	平成10年～(展示室拡張、アートライブラリの整備、レストランやミュージアムショップの新設、休憩スペースの増設などの改築) 平成12年～(耐震補強工事、ギャラリー改修)
東京国立近代美術館分室 ※旧工芸館	階数 地上2階 敷地面積 4,512.72㎡ 建築面積 929㎡ 延床面積 1,858㎡	112年 (明治43年建設)	昭和52年(保存修理工事)
④日本武道館 (公財・日本武道館)	階数 地上3階/地下2階 敷地面積 16,351.61㎡ 建築面積 8,422.62㎡ 延床面積 21,458.2㎡	58年 (昭和39年開館)	平成12年～(耐震補強工事) 平成30年～(増改修工事)
中道場棟	階数 地上1階/地下2階 敷地面積 上記に含む 建築面積 1,473.11㎡ 延床面積 3,048.06㎡	2年 (令和2年竣工)	

1 各周辺施設の状況② 施設の老朽化の状況

	規模	築年数	直近改修
⑤合同宿舎 代官町住宅	階数 地上9階（134戸） (a型28戸、単b型24戸、c型80戸、d型2戸)	13年 (平成21年建築)	
⑥北の丸宿舎	階数 地上5階（30戸）(c型)	46年 (昭和51年建築)	
	階数 地上5階（30戸）(c型)	44年 (昭和53年建築)	
	階数 地上9階（101戸） (a型16戸、c型85戸)	25年 (平成9年建築)	
⑦警視庁第一機動隊 事務庁舎	階数 地上6階 敷地面積 6,941㎡	22年 (平成12年建築)	
待機所	階数 地上9階 敷地面積 上記に含む	19年 (平成15年建築)	

2 北の丸公園（エリア）における課題意識 ～周辺施設運営者への意向、動向、ニーズ調査結果～

○ 連携、賑わい創出

- ・ 周辺施設の連携や、民間手法を入れた形での運営・連携も可能性にいたれた検討が必要。
- ・ 北の丸公園と調和しながら、周辺施設との相乗効果を生み出しつつ、連携により人が集う場所として、かつ北の丸エリアの全体の価値向上を実現する施設整備をどのように実現するかがポイント。
- ・ エリア周辺の賑わいを創出する工夫・アイデアを考えるべき。

○ 配置

- ・ 国立近代美術館・国立公文書館・日本武道館など、特徴的な主要施設が点在しているが、公園の利活用やそれぞれの文化施設間の連携はとれておらず、エリア全体のポテンシャルを生かし切れていないように見受けられる。
- ・ 日本トップのビジネス街に隣接するメリットの有効活用。

○ ビジョン

- ・ 東京国立近代美術館と国立公文書館と科学技術館は利用者層が異なるかもしれないが、人を呼び込むためのランドデザインが必要。
- ・ エリア全体でのランドデザインやコンセプトといったビジョンがなく、各施設ともに周辺施設、類似施設との連携の意識はあるが、そこに向けてのアクションには至っていない。

○ その他

- ・ EVや周遊バスの導入、屋根付き歩廊など、利用者導線の改善。
- ・ 駅から施設へのアプローチする際のバリアフリー化やアクセス性が不十分。
- ・ 北の丸エリアの利用状況調査（利用者層、目的、頻度など）による現状把握が必要。
- ・ 海外への日本の技術力の発信。

3 周辺施設との連携 ～デベロッパー、展示空間デザイン会社等への調査結果～

<連携による重要な視点>

○ エリアデザイン

- ・ 既存施設間の連携を含めた公園全体としての体験のデザインが必要。
- ・ エリアを一体的に再整備し、それぞれのコンテンツを結びつけブランド価値を創出するような具体的な取組の検討が必要。
- ・ 北の丸エリア、若しくは、皇居外苑エリア全体でのアクセス性の向上も考慮するべき。
- ・ 民間事業者や運営会社のノウハウを生かした新しい付加価値が生まれるような計画も検討する必要がある。

○ 規制緩和・仕組み作り

- ・ 民間企業との連携をする場合、事業の成立性と公共性のバランス、そして北の丸公園という立地特性との整合をとる必要がある。
- ・ 昼間に限らずナイトタイムや一日中北の丸公園を体験し尽くせるような在り方の可能性検討。
- ・ 北の丸公園に立地する他施設が外部空間に滲み出すような、新たな展示やイベントを公園内可能性と出来るかの検討。

○ 事業性

- ・ 土地利用方法を鑑み、事業成立性も考慮した規模での整備可能な立て付けの検討が必要。
- ・ 資金回収や魅力的な事業提案を導入できる可能性を高める観点から、長期にわたり土地利用が可能な事業方式の検討。

(ご参考) 博物館と連携の可能性のある用途として挙げられた例

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| ○ ショップ、ギャラリー、リスキング | ○ 思考・創造・学びの場 |
| ○ 滞在・宿泊・食の場 | ○ 交流・体験・晴れの場 |
| ○ カフェやレストランなどの飲食機能 | ○ イベントのできる貸しスペース・スタジオ |

4 新しい「科学技術館」に求められる視点 ～有識者、展示空間デザイン会社への調査結果～

○ 「STEAM」の「A (= Art)」の要素

展示物を設置するだけでなく、「文化」や「社会」とのかかわりを自然と感じさせるデザインが必要であり、異なる要素を結びつけるアートの力を発揮することが重要。また、そうしたアートのセンスを子供たちに与えていくことも重要。

○ 「コラボレーション」や「夜間利用」等による新たな客層の誘致

音楽や飲食等の新たな機能との連携や夜間の有効利用により、限られた客層の幅を広げていくことが可能。あらゆる機能との「掛け算」を生むことが重要。

○ 「企画力」や「実行力」を高めるための人材確保・連携

新しい企画を継続的に実行していくための人材確保が重要。専門家や企業等との連携を検討するとともに、連携する相手にもメリットを提供できる、インタラクティブな形であることが重要。

(ご参考) 再整備に向けた整理及びまとめ ～エリア施設、有識者、民間企業の視点～

<各調査先から提起されたエリア再整備コンセプトの設定に必要なキーワード整理>

エリア再整備のキーワード		エリア施設の視点			有識者の視点		民間企業の視点	
		東京国立 近代美術館	国立 公文書館	科学技術館	委員A	委員B	企業C	企業D
連携	北の丸公園との連携 エリアの価値を生かした再整備・利活用	○	○	○	○	○	○	○
	周辺施設との連携	○	○	○				
	北の丸公園の「夜間の有効利用」 ナイトタイムエコノミー	○		○		○	○	
	ビジネス街に隣接することの有効活用・企業連携 リスキリング	○		○	○		○	○
機能	賑わい創出・飲食機能の充実	○		○	○	○	○	○
	体験型・滞在型のプログラムや場	○		○	○		○	○
対象	海外への発信 インバウンド	○		○	○	○		
	新たな利用層の獲得	○	○	○	○	○		
動線	エリア動線・アクセス性向上・バリアフリー	○	○	○		○	○	○

→今後、上記のようなエリア再整備のキーワードを元にした「再整備コンセプト」の検討や関係所管等との連携体制の構築が重要と考えられる。